

平成25年度島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

附属病院経営戦略会議(医学部会計課経営支援室)

平成26年2月21日(金)、本院の管理運営等に対して外部有識者からの意見をj得る事を目的として、済生会熊本病院 院長 副島秀久氏、広島大学病院 整形外科 教授 越智光夫氏、星総合病院 理事長 星北斗氏をお招きし、島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催しました。当日は、病院内の視察を行った後、懇談会を開催し、病院運営改善・診療体制整備状況、高度医療人育成事業の取組、医師・看護職員確保対策及び地域医療連携など、幅広く活発な意見交換が行われ、大変有意義なものとなりました。今後は、今回頂いた提言を参考に、改善等に取り組むこととしています。



懇談会風景(正面左から:越智委員、副島委員、星委員、井川病院長)

初期研修2年間を終えて



2年次研修医
いな がき さと し
稲垣 諭史

私は島根大学のプログラムで1年目は松江赤十字病院、2年目は島根大学医学部附属病院で研修しました。当初は不安なことが多かったですが、経験を積み、患者さんの診療をする上で出てくる臨床的な疑問を解決していくことで徐々に自分の成長を実感できるようになりました。学生時代にある先生から授かった「患者さんから学ぶ」という言葉の意味を実感できる2年間であったように思います。平成26年度からは神経内科へ入局して新たなスタートをきることになります。研修医の頃の謙虚さを忘れずに高い専門性、幅広い診療能力を身につけ、島根に貢献できるように日々精進したいと思います。

第一種放射線取扱主任者取得



放射線部
みや い まさ ひろ
宮井 将宏

平成24年度病院医学教育研究助成の支援を受け、第一種放射線取扱主任者の資格を取得しました。資格の交付を受けたことで放射線の作業環境の保全、放射線業務従事者の個人管理や教育訓練などが出来るようになりました。現在放射線被ばくが問題視されており、患者さんから不安の声をよく耳にします。患者さんにわかりやすい説明を行い、安心して検査を受けていただけるように、放射線に関する知識やスキルの上を心掛けています。

SHIMANE
UNIVERSITY
HOSPITAL

NEWS

島大病院ニュース▶▶▶▶▶



2014.03

Vol.5

CONTENTS

診療科特集 呼吸器・化学療法内科
呼吸器外科

平成25年度島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催
初期研修2年間を終えて
第一種放射線取扱主任者取得



呼吸器・化学療法内科

呼吸器・化学療法内科 診療科長 いそ べ たけし 磯部 威

私たち呼吸器・化学療法内科では患者さんにとって最良の医療を提供することを目標とし、日々診療に取り組んでいます。

呼吸器内科領域では、胸部異常陰影、慢性咳嗽、感染症、抗酸菌症、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、気管支喘息、間質性肺炎、アレルギー性肺疾患、睡眠時呼吸障害、ニコチン依存症(禁煙外来)があります。いずれの疾患も学会専門医、指導医が対応し、ガイドラインに沿った最新の診断と治療を行います。

がん化学療法の領域では、肺がん、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍、転移性肺がん、乳がん、原発不明がんなど

の診断、治療に加え、がん診療のセカンド・オピニオンがあります。

肺がんは、難しい病気ですが、次々と新しい抗がん剤や分子標的薬が開発、承認されており、当科では最新の治療を提供します。

慢性の呼吸器疾患をはじめとし、睡眠時無呼吸の在宅陽圧呼吸、慢性呼吸不全に対する在宅酸素療法外来、外来化学療法など、治療は外来を中心に、ホームドクター、地域との病診連携をさらに深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

問合せ先

外来TEL 0853-20-2381
病棟TEL 0853-20-2490(A病棟6階)
医局TEL 0853-20-2580
FAX 0853-20-2580
E-mail : koka-nai@med.shimane-u.ac.jp
HPアドレス : http://www.csj-sanin.net/shimandai_cancer/

呼吸器外科

呼吸器外科 診療科長 かし もと こうじ 岸本 晃司

診療案内

当科では肺悪性腫瘍を中心とした胸部(肺・縦隔)疾患に対する手術治療を担当しています。平成19年10月より新科長として就任し、従来と同様に医学的根拠に基づいた世界標準の治療を原則として採用しています。

一般にひとつの疾患に対しては手術治療や手術以外の方法など複数の治療方法が選択肢として挙げられます。当科では世界の最新情報を提供すると共に、各々の治療方法に対する利点・欠点をわかり易く説明した上で治療方針を決定するという過程を大切にしています。

呼吸器内科、放射線科、病理部との緊密な連携のもとに各々の疾患に応じた詳細な治療計画を検討し、専門的立場からその人にとって最良と思われる治療方法を提示しています。加えて最新技術・機器の導入により常に最先端で高水準の医療を提供できるよう日夜努めています。

胸腔鏡下手術

現在、原発性肺がんを含めたほとんどの呼吸器外科疾患に対して積極的に胸腔鏡を導入しています。当科では、基本的には胸壁に設けた3ヶ所の小さな孔を通して胸腔鏡や手術機器を挿入し本手術を施行しています。通常、摘出するもの大きさに応じて上記の傷のいずれか一つを延長しています。例えば原発性肺がんにおいて肺葉切除とリンパ節郭清を施行する場合、約1-2cmの傷2ヶ所と約5-8cm(カードサイズ大)の傷1ヶ所で施行しています。胸腔鏡は径5mmと細径のものを、傷の縮小に努めています。

原発性肺がん

私達の目指すところは、がんに対する根治性を確保しつつなお且つ手術後の生活の質を高いレベルで保つことのできる治療です。

原発性肺がんは悪性疾患である以上、根治性を重視することは言うまでもありませんが、これを可能な限り低侵襲にかつ安全に行うよう留意しています。この手段の一つとして前述の胸腔鏡下手術を導入していますが、従来の方法と比較してリンパ節郭清等の切除範囲において遜色なく、根治性を保っていると言えます。

中枢型肺がん肺全摘が考慮される場合でも、気管支形成術や肺動脈形成術を駆使してできるだけこれを回避して肺機能の温存に努めています。

転移性肺がん

肺は他臓器に生じたがんが転移しやすい場所です。肺転移巣を切除することにより生命予後の改善が期待される場合、この切除が検討されます。通常胸腔鏡下手術が採用されます。

肺良性腫瘍・自然気胸・縦隔腫瘍

これらの疾患は胸腔鏡下手術の良い適応であり、まず最初に本術式が検討されます。

手術件数

当院で呼吸器外科専門医により呼吸器外科が開設され約10年となります。当初は年間手術件数約50件ほどと小規模でしたが、地道に診療実績を積み上げた結果、県内の先生方からのご紹介も増え、ここ数年は年間約170-200件ほどで推移しています。現在これを科長以下スタッフ3人でこなしています。症例の中で最も多くを占めるのは原発性肺がんですが、この治療に関しては当初より胸腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に行って参りました。以前は肺葉切除に際しては胸腔鏡を補助的に用いる胸腔鏡補助下手術(Video Assisted Thoracic Surgery; VATS)を採用していましたが、平成24年度からは胸腔内操作の全てをモニター視下で行う完全胸腔鏡下肺葉切除術へと移行しました。胸腔鏡補助下手術と比較して整容性の面では傷が若干小さくなった程度にすぎませんが、この変化以上に低侵襲性の進化には目を見張るものがあり、術後の回復は明らかに早くなったと実感しています。このことは高齢者の手術に際しての安全性に寄与している他、仕事を持たれている方でも社会復帰がより早くなったという点で大きく貢献しています。

問合せ先

外来TEL 0853-20-2384
病棟TEL 0853-20-2491(B病棟6階)
医局TEL 0853-20-2225(循環器・呼吸器外科)
FAX 0853-20-2222
E-mail : kyobuge@med.shimane-u.ac.jp





号外

総合診療科外来が始まりました

平成25年10月島根大学に総合診療科が新設され、この度平成26年2月10日(月)からC病棟1階救命救急センターにおいて総合診療科外来を開始しました。

総合診療力は、当たり前のことを当たり前に行える力
救命救急センター外来は大学病院らしくないのが特徴
重度の疾患に加えて、common diseaseの宝庫
医学生、研修医の初療を現場で指導

診療時間 月、火、木 18時～21時
場 所 C病棟1階 救命救急センター外来 総合診療科診察室
担当医師 石橋 豊&木島庸貴(総合医療学講座)
月、木：木島(家庭医療専門医、在宅医療専門医)
火：石橋(総合内科専門医、循環器専門医)

担当医の
ひとこと

(将来的には、月～金 週5日体制の予定)

石橋医師

私も皆さんと一緒に研修をします
『総合力のある専門医』を目指して自分自身にも総合力を
叩き込みたいと思います

木島医師

診断がついていない患者さんがたくさん訪れる
救命救急センター外来は、学びの宝庫であると考えています。
研修に来られた皆さんの学びの充実に向けて頑張ります!

総合診療チームに加わりませんか
連絡お待ちしております

問合せ先 総合医療学講座
TEL：0853-20-2635



号外

島大病院では 幅広い疾患領域に 対する治験を 実施しています



当院は、治験推進施設として、内科・皮膚科・外科・泌尿器科・精神科・眼科・麻酔科など、様々な領域の治験を実施しています。

治験に関する情報は、治験管理センターホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/tiken/toppage>で公開していますが、創薬ボランティア(治験にご協力いただける方)を募集中の治験などについて、一部、ご紹介いたします。

～癌領域～

試験名	対象疾患	診療科	主な選択基準	主な除外基準	治験参加期間	募集期間(予定)
トラスツズマブ エムタンシンの第II相臨床試験	HER2陽性局所進行・再発又は転移性乳癌	乳腺内 分泌外科	<input type="checkbox"/> 乳癌組織においてHER2陽性で化学療法の治療歴のある患者 <input type="checkbox"/> トラスツズマブの治療歴ある患者 <input type="checkbox"/> ECOG Performance Statusが0～3	<input type="checkbox"/> 症候性肺疾患のある患者 <input type="checkbox"/> NYHA分類Ⅱ以上、CTCAE ver.4.03に規定されたGrade3以上に該当する心機能障害やGrade3以上の末梢神経障害を持つ患者 <input type="checkbox"/> コントロールされていない心肺機能障害(高血圧、重篤な不整脈など)を有する <input type="checkbox"/> HIV、活動性B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスに感染している患者	治験薬最終投与後の観察まで(投与期間:通常1サイクル21日で3サイクル、但し中止基準に該当するまで継続可)	平成26年4月末まで
未治療のCD20陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)患者を対象としたGAI01の第III相試験	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	腫瘍・血液内科	<input type="checkbox"/> 18歳以上 <input type="checkbox"/> 前治療歴がないCD20陽性DLBCL患者 <input type="checkbox"/> 直交する2方向で計測可能な病変(CT画像上の最大径>1.5cmの病変)を有する <input type="checkbox"/> ECOG Performance Statusが0～2 <input type="checkbox"/> 十分な血液学的機能を有する	<input type="checkbox"/> 形質転換したリンパ腫患者、及び濾胞性リンパ腫 Grade 3b患者 <input type="checkbox"/> リンパ節生検及び局所放射線照射を除く、DLBCLに対する治療歴を有する患者 <input type="checkbox"/> リンパ腫以外の疾患に対する細胞傷害性薬剤又はリツキシマブの投与歴、又は抗CD20抗体の投与歴のある患者 <input type="checkbox"/> 原発性中枢神経系リンパ腫、芽球様亜型MCL、Burkittリンパ腫への形質転換を示唆する組織学的所見、原発性縦隔DLBCL、原発性滲出性リンパ腫、又は皮膚原発DLBCLを有する患者	治験参加への同意～治験薬の最終投与後の観察(投与期間:通常21日サイクルで、最大8サイクルまで)	平成26年6月末まで
ITK-1の前立腺癌に対するプラセボ対照第III相二重盲検比較試験	前立腺癌	泌尿器科	<input type="checkbox"/> 20歳以上85歳未満 <input type="checkbox"/> HLA-A24陽性 <input type="checkbox"/> 前立腺癌の前治療において以下を全て満たす 1) 去勢抵抗性 2) 前立腺癌に対してドセタキセル治療実施後に血清PSA値、CT/MRIまたは骨シンチ画像診断にて増悪 <input type="checkbox"/> PSAが0または1	<input type="checkbox"/> ドセタキセル以外のタキサン系抗癌剤を使用 <input type="checkbox"/> 重篤な合併症 <input type="checkbox"/> 活動性の重複癌を有する <input type="checkbox"/> 精神症状で同意能力を欠く	約74週間(投与期間70週)	平成27年7月末まで

該当する患者さんがおられましたら、ぜひ、当院へご紹介いただきますようお願い致します。

問合せ先 治験管理センター
 TEL : 0853-20-2492、FAX : 0853-20-2495
 E-mail : tiken@med.shimane-u.ac.jp



更なるコストカットに取り組めます

本院は、平成24年度末に病院再開発事業が完了し、平成25年4月からリニューアルオープンいたしました。大学病院として、患者さんへの快適な療養環境はもとより、大学病院の使命であります「救命救急医療及び急性期医療の充実」、「教育・研究環境の向上」に日々取り組んでいるところです。

上記の使命を確実に推進するためには、病院経営の安定が不可欠です。その方法として病院収入の確保は言うまでもありませんが、同時にコストカット（経費削減）に向けた取り組みを将来に亘り継続することも大変重要であると考えています。

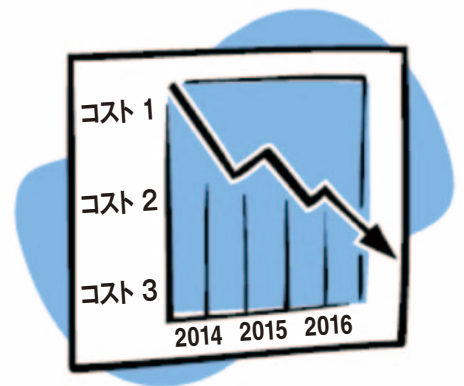


そこで、フルオープンから1年間の実績を基に、具体の削減目標値の設定、目標を達成するための実行方法の検討及びその評価を行い、出雲キャンパス全職員が一丸となってコストカットを確実に実行するため、改革担当副病院長をリーダーとする学部・病院が一体となった新たな組織を平成26年度より設置することといたしました。本取り組みを着実に実行することにより更なる病院経営の安定を図って参りますので、今後ともご支援・ご協力の程よろしくお願いたします。

以下に具体の取り組み事項を示します。

取り組み事項

- (1) 省エネルギーに関すること
- (2) 医薬品・医療材料に関する経費削減に関すること
- (3) 外注業務に関する経費削減に関すること
- (4) 人件費の削減に関すること
- (5) その他 経費削減に関すること



PS. コストカットに関するご提案やご意見がありましたら是非お寄せいただきますようお願いいたします。

問合せ先

医学部会計課経理・契約総括担当

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL : 0853-20-2536

E-mail : igak-kekac@office.shimane-u.ac.jp



Paauw教授(Washington大学)と 医学生との熱い交流

卒後臨床研修センター おに がた かず みち
鬼形 和道

米国ベストティーチャー賞を2度受賞された総合内科医のPaauw教授が3回目の来学でした。学生教育コーディネーターでもあり、研修医と医学生の心を捉える医学教育を実践されています。学生主催の2つのミーティングについて、彼らの声を交えて報告します。

4年生が立案した“Medical Quiz”に続いて、“Pearl Diving”というタイトルで鑑別診断と非典型症状の重要性を説かれました(1月27日)。

奥村 和也(4年生) Enjoyed!この一言に尽きます。初の英語の企画でしたが、3年生から研修医、さらに指導医もご参加頂き、活況の溢れる会でした。Dr. Paauwの適時のコメントに耳を傾け、まさに目からうろこのPearl Divingでした。ワシントン大学で学んでみたい。

加納 希生(4年生) ケースをいくつかクイズ形式で提供させて頂きましたが、開催した自分たちが一番勉強になったと思います。来年は後輩の皆さんに開催してもらえたらと思います! 最後にお世話になった先生方に感謝申し上げます。

5年生が手作りした「救急外来に外国人が来たら…、あなたは問診をできますか?」というセッションに引き続き、“Physical examination”の重要性を熱く語られました。(1月28日)

合田 祥悟(5年生) 『黒船～壁を超える技術～』という題でセッションを開催しました。大変勉強になることが多く、開催者が一番勉強させていただいたと思います。英語で問診をする機会はあまり多くはないですが、今後役に立つと思います。

勝山 浩延(5年生) 今回、英語で問診・身体診察を行うイベントを開催しました。Paauw先生の的確なアドバイス・レクチャーもあり、楽しめました。今後も、医学と英語の向上に努めたいと思います。

学生や研修医を大切にする気持ちが伝わり、一方でその圧倒的なプレゼンテーションスキルに酔いました。彼とコンタクトできた学生と研修医は、きっと大きく成長するでしょう。

問合せ先 卒後臨床研修センター
TEL: 0853-20-2006
E-mail: sotsugo@med.shimane-u.ac.jp



『黒船～壁を超える技術～』 英語で問診、診察に挑戦



"Medical Quiz & Pearl Diving" Paauw教授を囲んで